

よもやま話に花が咲く。えきんぐらがお届けする小ネタ袋。

# 蔵通信

二二号  
2010.5

## 絵金百話

シリーズ

第二十一話 夫婦の想い

発行：絵金蔵運営委員会  
発行日：2010年5月1日  
〒781-5310  
高知県香南市赤岡町538  
Tel.Fax 0887-57-7117  
e-mail: ekingura@mx1.netwave.or.jp  
<http://www.ekingura.com/>



## INFORMATION

### ☆第三十四回 絵金祭り

今年も絵金祭りの季節がやって参りました。年に一度、この時に限り、赤岡町内の芝居絵二十三点が各所蔵者の家の軒先に並びます。酒蔵開放ほか、屋台あり、歌あり、賑やかに、鮮やかに屏風絵が勢ぞろい！是非、お越しください。

### ☆土佐絵歌舞伎伝承会 歌舞伎公演

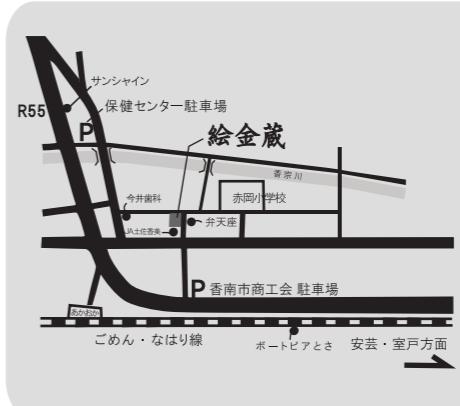
日 時 七月十七日（土）、十八日（日）\*絵金祭当日  
場 所 赤岡町本町・横町商店街  
駐 車 場 香南市商工会・赤岡保健センターほか  
演 目 浄瑠璃式三番叟、伽羅先代萩 御殿、伊達娘恋緋鹿子 橋のお七  
交 通 料 金 無 料・全席自由  
料 金 ごめん・なり線「あかおか駅」より徒歩十分  
駐 車 場 電 話 香南市商工会・赤岡保健センターほか  
弁 天 座 （〇八八七一五七一三〇六〇）

日 時 七月十七日（土）、十八日（日）\*芝居絵が並ぶのは午後七時からです。  
場 所 赤岡町本町・横町商店街  
駐 車 場 香南市商工会・赤岡保健センターほか  
演 目 【お問い合わせ】絵金祭り実行委員会（香南市商工会内）〇八八七一五四一三〇一四

### 絵金祭り期間中 催しのお知らせ

白描展ほか	白描展ほか	絵金蔵夜間開館
7 / 13(土) ~ 19(月・祝) *白描展期間中、サロン（喫茶コーナー）は休ませていただきます。 その他、絵金祭り期間に合わせ特別展示を予定しています。	7 / 14(水) ~ 15(木) 18時（19時半入館締切）~ 20時 *9時～17時は通常開館致しますが、17時より18時の間、一時閉館致します。	7 / 17(土) ~ 18(日) 18時（19時半入館締切）~ 20時 *9時～17時は通常開館致しますが、17時より18時の間、一時閉館致します。

【絵金蔵】
開館時間 午前9時～午後5時 (入館は午後4時半まで)
観覧料 大人500円、高校生300円 小・中学生150円 (15名以上の団体は各50円引き)
休館日 毎週月曜日 (月曜が祝日の場合は火曜) 12月29日～1月3日



幕末土佐の芝居絵師・金蔵（通称・絵金）。彼は土佐各地の祭礼に多くの芝居絵屏風を残しました。絵金蔵は、平成17年2月、赤岡の地に残る23点の芝居絵屏風を収蔵・保存するために作られた施設です。

絵金蔵の三つの使命  
年に一度 絵金の文化を守るため  
伝承 次の世代へ伝えるため  
縁結び 地域を超えて世代を超えて

# 絵金百話

第二十一 夫婦の想い

くすのきむかしばなし  
楠昔嘶 德太夫住家

## 概要

『楠昔嘶』は延享3年(1746)1月、並木千柳・三芳松洛・竹田小出雲の合作で大坂・竹本座にて時代物の人形淨瑠璃として初演されました。歌舞伎では翌月京都・中村糸太郎座にて初演されています。

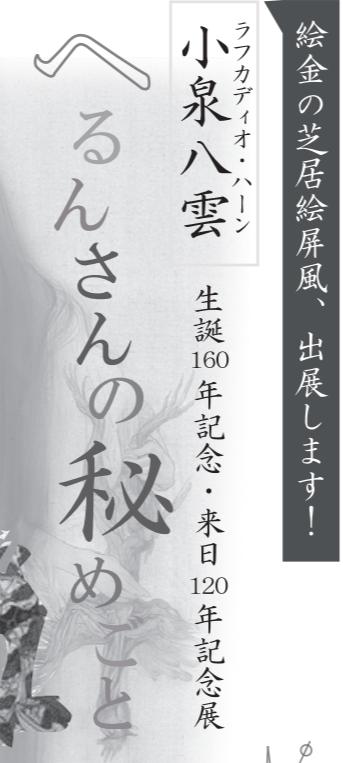
本作は『太平記』<sup>\*1</sup>を題材とする「太平記物」で、後醍醐天皇に味方する(南朝方)<sup>\*2</sup>楠正成と六波羅方(北朝方)<sup>\*3</sup>の争いを中心に、そこに絡み合う複雑な親子・姻戚関係を描いています。題名は、角書<sup>\*3</sup>に「祖父は山へ柴刈りに、祖母は川へ洗濯に」とある通り、三段目「徳太夫住家」にみえる老夫婦が、昔嘶の桃太郎の両親さながらのどかに暮らすという設定に基づいたものです。全五段の各段を正月・雛・五月節句・七夕・菊の節句と五節句の風物に結び付けつつ展開しているところが本作の特徴ですが、なかでも今回取り上げる第三段は、落ち武者たちが川を流れる描写に基づき、通称「どんぶりこ」と呼ばれ、親しまれてきました。

絵金が描く本作はまるで舞台さながら、悲劇の結末に向かう直前の場面を臨場感たっぷりに描いています。両手を広げ二人の間に割って入る徳太夫と争う妻たちに対し、子どもたちのあどけない表情は対照的です。肘を張り敵の妻をにらみつけるおとしの着物は黒を基調とし、そこに帯の緑、乱れた裳裾の赤が美しく鮮やかに映えています。極端に胴を細く描きながら緊張感を保つこのおとはのシルエットは『蝶花形名歌島台 小坂部館』(本誌9号)の諍う姉妹にも見られる描写ですが、同時代の浮世絵師・渓斎英泉(1791-1848)の美人図などにも通じるようです。背景の端午の節句飾りや狼煙の上がるさまなど原作通りの描写に加え人間世界を皮肉るような独自の描写も見どころの一つ。今回も、どうぞお楽しみください。

\*1 『太平記』は、南北朝時代を舞台に後醍醐天皇の即位から鎌倉幕府の滅亡、建武の新政と南北朝分裂などを描いた軍記物語。14世紀後半の成立とみられています。江戸時代には講談などで語られ多くの庶民に広まりました。赤穂浪士の討ち入り事件が起ると、竹田出雲らにより太平記の塩冶判官の物語に仮託されて『仮名手本忠臣蔵』が誕生しました。

\*2 宇都宮公綱(1302-56)は鎌倉時代後期から南北朝時代にかけて実在した武将。元弘の乱(1333)の際、北条高時の命を受けて上洛し、大坂・四天王寺にて官軍側の楠木正成と戦いました。このとき正成と公綱はお互いの知略を恐れて直接対決を避け、結局勝敗はつかず引き分けたといいます。和歌にも優れた才能を發揮し、『新続古今和歌集』に作品がおさめられています。

\*3 角書は淨瑠璃の名題、歌舞伎の外題、書物の題名などの上に、その主題や内容を示す文字を2行または数行に割って書いたもの。



ラフカディオ・ハーン

小泉八雲

生誕160年記念・来日120年記念展

絵金の芝居絵屏風、出展します!

へるんさんの秘めこと

この夏、熊本市現代美術館では、「小泉八雲生誕一六〇年記念・来日一二〇年記念 へるんさんの秘めこと」展を開催する。この展覧会は「小泉八雲の記念の年でもあるし、熊本ゆかりの人物だから、とにかくちょっと行うか」というものでは決してない。二〇〇一年より当館が築き上げてきた歴史がもちろん関わっている。そして、その最も象徴的な表れが、絵金と小泉八雲の組み合わせなのである。



二〇一〇年

六月二十六日(土)から九月五日(日)まで

開館時間 午前十時~午後八時(午後七時半入館締切)

休館日 火曜日

観覧料 一般一〇〇〇(八〇〇)円 高・大学生五〇〇(四〇〇)円 小・中学生三〇〇(二〇〇)円 \*は前売り、二〇名以上

の団体 身体障害者手帳をお持ちの方、熊本市・福岡市・鹿児島市で六歳以上の方。

【会期中の催し】出品作家によるアーティストトーク

六月二十六日(土)十四時  
七月四日・十一・十八・二十五、八月一日、全て十四時

・浪曲公演 八月十三日、十八時 浪曲師・国本武春

\*その他催し、連携イベント多数詳しく述べる。詳しくは熊本市現代美術館HPをご覧下さい。

熊本市現代美術館  
〒860-0845 熊本市上通町2-3  
びぶれす熊日会館3階  
TEL:096-278-7500 fax:096-359-7892  
ホームページ <http://www.camk.or.jp>

絵金と小泉八雲、その組み合わせのココロについて

熊本市現代美術館学芸員 富澤治子



さて、今度こそ小泉八雲である。八雲のイメージとして最初に浮

かぶるのは「耳なし芳一」「雪女」の作者であろう。名前は有名だが、

どういう人生を歩み、何を考えていた人物かなどは一般にはほとんど知られていない。しかし少しでも著書を読み調べたなら、旺盛な

好奇心と並々ならぬ行動力を持った魅力的な人物であつたことを発

見できるはずである。

これまで、今度こそ小泉八雲である。八雲のイメージとして最初に浮

かぶるのは「耳なし芳一」「雪女」の作者であろう。名前は有名だが、

どういう人生を歩み、何を考えていた人物かなどは一般にはほとんど知られていない。しかし少しでも著書を読み調べたなら、旺盛な

好奇心と並々ならぬ行動力を持った魅力的な人物であつたことを発

見できるはずである。

さて、今度こそ小泉八雲である。八雲のイメージとして最初に浮

かぶるのは「耳なし芳一」「雪女」の作者であろう。名前は有名だが、

どういう人生を歩み、何を考えていた人物かなどは一般にはほとんど知られていない。しかし少しでも著書を読み調べたなら、旺盛な

好奇心と並々ならぬ行動力を持った魅力的な人物であつたことを発

見できるはずである。

この展覧会の目的は、

一〇〇年前を生きた八雲の視線を現代に蘇

らせて、その目線を用いながら、改めて絵金の魅力を熊本で再発見

するための場をつくりだしてみることにある。本展では、月岡芳年、

河鍋暎斎とともに、現代日本のアーティストたちの作品も多く出品

されるが、絵金の作品とともに展示することによって、それぞれがこれまで見せたことのなかつた魅力を相乗的に光らせるであろうことも期待

している。

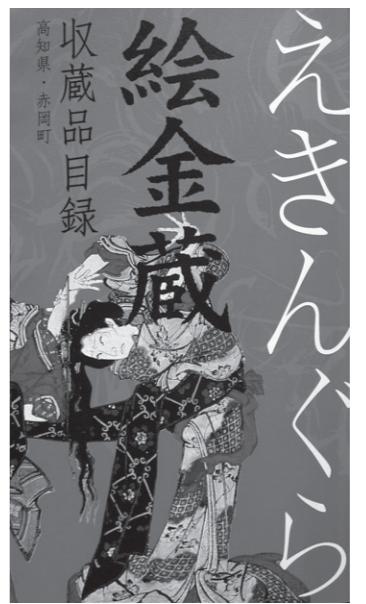
主催・熊本市、熊本市美術文化振興財團、熊本日日新聞社、TKUテレビ熊本

主催・熊本市、熊本市美術文化振興財團、熊本日日新聞社、TKUテレビ熊本

# 書籍案内

もつと楽しむ

改訂版、発行。



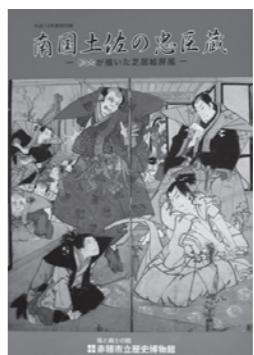
収藏品目録



絵金蔵が収藏する赤岡町内の芝居絵屏風23点と横幅をカラーで紹介する『絵金蔵収藏品目録』。この度初版より20ページを増補した改訂版を発行致しました。近年新たに確認された絵金の絵本（子供四季風俗図）や絵金の師・前村洞和の作品など、新たな調査成果を加え、さらに充実した内容になっています。梅原真氏によるデザインもみどころ。

販売・絵金蔵  
価格・2,000円

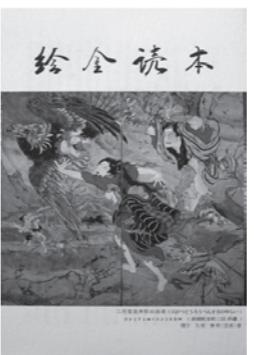
南国土佐の忠臣蔵  
- 絵金が描いた芝居絵屏風 -



平成2年、旧赤岡町初版発行。赤岡の郷土史家・近森敏夫（故人）により、赤岡の芝居絵を中心に、見どころや絵金の生涯を紹介。薄い冊子で持ち歩きにお手頃です。

販売：絵金蔵  
価格：800円

絵金読本



絵金読本 英語版

複雑な芝居絵のストーリーを簡潔にまとめ、英文で解説しています。

販売：絵金蔵  
価格：500円

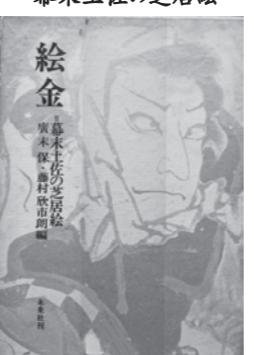
絵金



東京・バルコ出版より昨年発売された絵金の画集。赤岡町内の屏風絵全てを収録し、独特な画像処理によってこれまでにない斬新なカットが多数収録されています。

販売：絵金蔵ほか、全国書店にて  
価格：2,100円

絵金  
- 幕末土佐の芝居絵 -



美術手帖 No.927  
アウトローの美学



昭和43年未来社刊。絵金に最も早くから注目していた広末保・藤村欣一郎による編集。収録される広末・藤村欣一郎による「幕末土佐の芝居絵」は絵金研究必携の論考。絶版。

販売：なし  
＊高知県立図書館他で閲覧可能

絵金  
- 土佐の芝居絵と絵師金蔵 -



平成8年、高知県立美術館にて行われた絵金の大規模な展覧会図録。この時初めて絵金の画業の全貌が明らかになりました。鍵岡正謹氏論考収録。

販売：高知県立美術館  
価格：2,500円

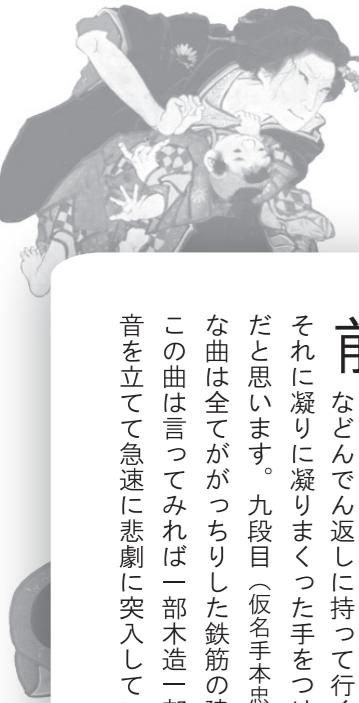
## かざる「楠昔嘶 徳太夫住家」

グッズ紹介



まちの奥さん方の絵金グッズ製作グループ「やつゆ会」が手作りするミニ屏風。開いたときにきれいに見えるよう、貼り方にも工夫しています。お土産に、魔除けに（！？）ぜひどうぞ。  
定価 2,500円

これであおげば、涼しさ倍増。  
こちらもまちの奥さん企画。  
定価 1,000円



## 「楠昔嘶」を語る

くすのきむかしばなし  
つるさわせいじ  
「楠昔嘶」を語る  
—義太夫節三味線方・人間国宝 鶴澤清治の言葉—

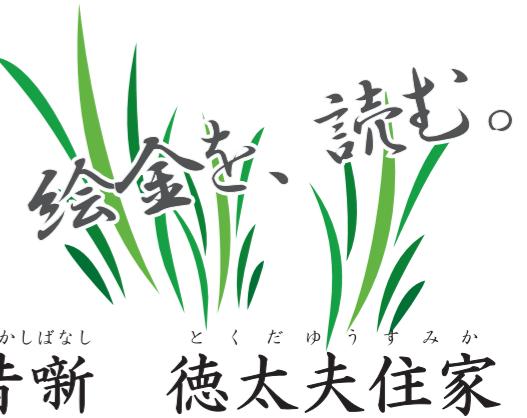
**前**半のどのかな老夫婦の生活から、突然天井がひっくりかえるようなどん返しに持つて行く、これをお書きになつた作者と、それに凝りに凝りまくつた手をつけられた作曲者の力量は大したものだと思います。九段目（仮名手本忠臣蔵）や尼ヶ崎（絵本太功記）のような曲は全てががつちりした鉄筋の建物のような手応えがありますが、この曲は言つてみれば一部木造一部鉄筋で、後半でそれががたがたと音を立てて急速に悲劇に突入していくような、そんな印象があります。

**覚**えにくい手になつてゐる所が多いのには難儀しました。三味線のツボが離れ過ぎていて、飛ぶような所もあります。…中略…もちろん初演の頃から現在のような手が付いていた訳ではなかつたでしょうが。ただ、想像いたしますに、この「楠昔嘶」が初演された十八世紀の半ば頃になると、義太夫のみならず他の音曲においても急速に技巧の進歩を遂げ、当時の三味線弾きは競つて難しい手を付けたのではないかでしょうか。そして三味線という楽器自体も改良され、ようやく三味線弾きの腕の見せ所が發揮できる時代にさしかかってきたのではないかと思います。…中略…

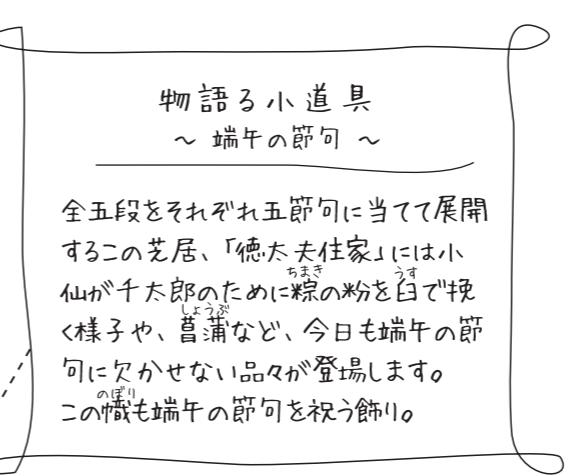


『叢書江戸文庫40 竹本座淨瑠璃集（三）』所収  
月報40 鶴澤清治「楠昔嘶・徳太夫住家の段」について

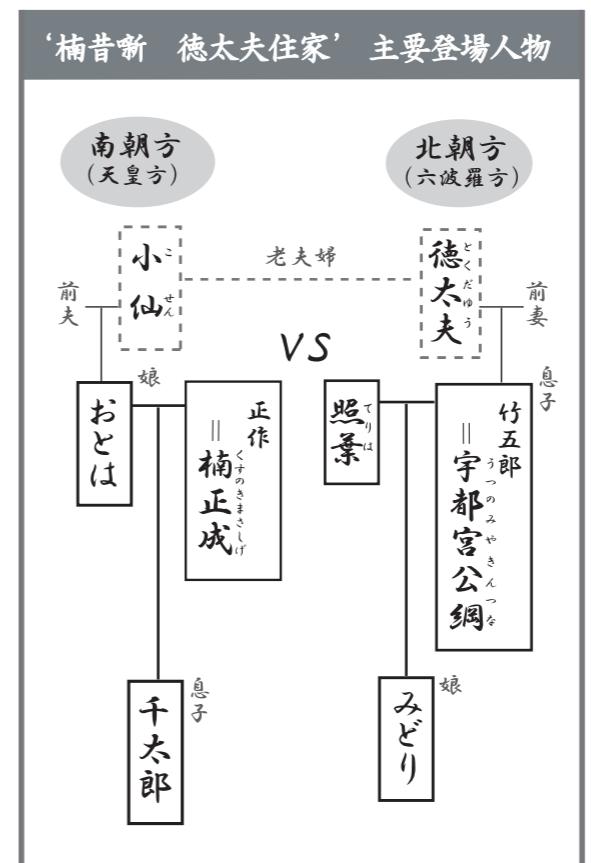




二曲一隻屏風/紙本著色/154.0×172.5cm  
赤岡町横町二区所蔵



- 丸ふするのが親の慈悲。  
两家の戦いに胸を痛める小仙。「夫婦親子も敵味方。別れ別れにならふかと、そればつかりが悲しうござる。」と夫に訴え、孫同士を結婚させるという和睦の策を聞いて、それは妙案と早速準備するのですが…。
- 敵と敵の子供等を、祝言さしてはお上へ立す。  
二人の祝言がまさに行われようとするところ、盃を取って打ち割る照葉。娘みどりをわきに抱え、怒りをあらわにする様子。



—あらすじ—

河内の国生駒山のふもとに住む百姓の徳太夫と女房の小仙は老い、いたわり合いながら暮らしている。二人にはそれぞれ連れ子があり、徳太夫が勘当した息子竹五郎は北朝の大将・宇都宮公綱となり、小仙の娘おとはの婿正作は南朝の武将・楠正成となつて互いに敵対している。

端午の節句の折、宇都宮公綱の妻照葉、楠正成の妻おとはが孫を連れて徳太夫の住家を訪ねる。老夫婦は孫同士が夫婦になれば敵同士の間柄も丸く収まると思い、祝言の準備を整えるが、照葉とおとは断固拒み、諍いを始める。両家の和睦をあきらめた老夫婦は仏間にに入る。

なおも諍う二人の前に狼煙があがり、それを合図に次々と山々に篝火が焚かれる。そのとき障子の向こうに血煙がたち、照葉とおとはが駆け寄ると、老夫婦は互いに刺し合い果てようとしていた。驚く二人に徳太夫は、楠が義理の父である自分を思い、わざと息子・公綱はなおも楠を討とうとしている、そこで楠への恩返しに兼ねてより山の炭焼き衆に頼み、公綱の軍勢を脅かすため狼煙を合図に篝火を焚かせたのは自分の計略であったと告白する。

臨終が近付いた徳太夫は、傍の石臼に自らの血で「了雲信士」「妙三信女」と戒名を書き、公綱が天皇方に味方しここに墨を入れれば勘当を許そうと照葉に言い残し、小仙と共に息絶える。

その後商人に化けこの家にもぐり込んできた公綱のもとに楠正成が現れ、妻たちの前で再び戦うが、死んだはずの徳太夫が起き上って公綱の槍を掴み折る。その思いの深さに打たれた二人は、その場の勝負を思いとどまる。